

「伸び」が評価され児童生徒・教員共に 頑張り が報われる新学力調査の導入を

川崎市議会議員 末永直

文科省が7月31日に公表した今年度の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で川崎市の正答率が、多くの教科で全国平均を上回った。朗報だ。

2018（江東区有明にて）で、埼玉県教育局職員による講演「埼玉県学力・学習状況調査を活用した学力向上」子供たち1人1人の学力の変化と非認知能力などの把握

の伸びを分析し、共有でき、教員の資質向上につなげる」取組が必要だ。過日、調査活動として参加した「New Education Expo」

を聴き、いたく感銘を受けた。IRT（項目反応理論）やパネルデータ等を駆使して、小4から中3までの「同一児童生徒の学力等の伸びを把握できる全国初の調査」取組についてだ。

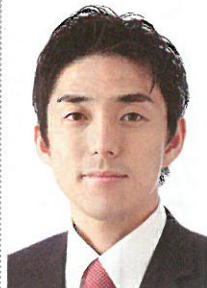
埼玉県では毎年集約される約90万人分のビッグデータを分析し事業実施に活用する。家庭の経済状況などから学力に課題が見られる児童が多い学校を重点支援したり、教員の良い指導方法などを一元化して共有できる「学習支援カルテ」を作成し、児童生徒一人ひとりに適した指導改善への支援を

全ての子どもがわかることを目指して、きめ細やかな指導を充実させることは重要だ。私は、いずれは「全ての子どもがわかる」とともに「習熟

を聴き、いたく感銘を受けた。IRT（項目反応理論）やパネルデータ等を駆使して、小4から中3までの「同一児童生徒の学力等の伸びを把握できる全国初の調査」取組についてだ。

例えば、50メートル走で、7・5秒で走ることを目指した場合に、生徒Aは最初8・5秒で最後7・6秒。生徒Bは最初7・0秒で最後7・4秒。

ここで取り上げたIRT等を用いた新方式の学力調査手法は、モデルとして他都市でも次第に採用されつつある。本年度は広島県福山市が、来年度は福島県全域で実施するとのことだ。



末永直 プロフィール
○国立佐賀大学大学院 教育学研究科卒業
○参議院議員元秘書
○昭和58年5月27日 35歳
○政務活動事務所
〒211-0034
中原区井田中ノ町42-10
問合せ先 ☎044-789-5823

タイムは生徒Aが生徒Bより遅いが、生徒Aの方が0・9秒伸びており、教育的効果が高い。本調査ではこの「伸び」に着

目してその要因を明らかにする点にある。埼玉県では毎年集約される約90万人分のビッグデータを分析し事業実施に活用する。家庭の経済状況などから学力に課題が見られる児童が多い学校を重点支援したり、教員の良い指導方法などを一元化して共有できる「学習支援カルテ」を作成し、児童生徒一人ひとりに適した指導改善への支援を

実施しているとのことだ。私は6月26日これを取り上げ、議場で質問した。市長は「初めて認識した」から頑張りと思う方がすべて報われる社会への一助になればと願う。

育評価において大事な視点」と受け止めていた。本市への導入にむけた課題等について、教育次長からは「費用等の実施条件も含め、様々な課題がある」と考えるが、導入している自治体の取組などについて、調査研究したい」との答弁を得た。これからの肝心だ。

頑張った子も、頑張った先生も、そして、これから頑張りと思う方がすべて報われる社会への一助になればと願う。